

議会だより

発行 斑鳩町議会
 斑鳩町法隆寺西3丁目7番12号
 電話 0745-74-1001
 FAX 0745-74-1011
 電子メール: gikai@town.ikaruga.nara.jp
 発行人 議会議長 中西 和夫
 編集 広報発行常任委員会

平成22年(2010年)11月1日



ごぼうやま さんさいゆうがいえんめんけん
 竜田御坊山3号墳出土・三彩有蓋円面碗
 (斑鳩文化財センターの秋季特別展[11月3日~28日]に展示予定)

9月定例会

- 9月定例議会ではこんなことが決まりました ②ページ
- どう活かされたか、まちのお金(平成21年度決算を認定)..... ④ページ
- 意見書を送付..... ⑧ページ
- 8人の議員が一般質問を行いました ⑩ページ
- 委員会のうごき..... ⑬ページ

ました

平成22年第4回定例議会は、8月30日から9月24日までの26日間の会期で開かれ、平成21年度一般会計歳入歳出決算の認定など、17議案を原案のとおり可決・認定・承認しました。また、人事案件10件について承認・同意し、報告事案5件について報告を受けました。その他、4件の陳情について審議し、それぞれ下記のとおり結果となりました。最終日には、意見書4件を上程・可決し、関係機関に意見書を送付しました。

	案 件	結 果	
財 産	ハイブリッド塵芥収集車(ロータリープレス車)購入について	満場一致で可決	
報 告	議会の委任による町長専決処分の報告について(損害賠償の額の決定について)	報 告	
	議会の委任による町長専決処分の報告について(平成22年度斑鳩町一般会計補正予算(第5号)について)		
	平成21年度斑鳩町一般会計継続費精算報告書の報告について(※)		
	平成21年度斑鳩町公共下水道事業特別会計継続費精算報告書の報告について(※)		
	平成22年度斑鳩町土地開発公社事業計画の変更(第1号)の報告について		
陳 情	国史跡藤ノ木古墳前の景観保持のための土地検討のお願いについて	満場一致で不採決	18ページに関連記事
	米価の大暴落に歯止めをかけるための要望について	満場一致で採択	16ページに関連記事
	免税軽油制度の継続を求める要望について		17ページに関連記事
	子宮頸がん予防ワクチン接種の公費助成を求める要請書について		
発 議	米価の大暴落に歯止めをかけるための意見書について	満場一致で可決	8ページに関連記事
	免税軽油制度の継続を求める意見書について		
	子宮頸がん予防ワクチン接種の助成制度の創設を求める意見書について	満場一致で可決	9ページに関連記事
	子宮頸がん予防ワクチン接種への助成を求める意見書について		

? ミニ解説

※ 継続費精算報告書の報告

「継続費」は、2年以上にわたり支出すべき経費の総額と年度割を、あらかじめ予算計上するもので、毎年度の執行残額は、最終年度まで繰り越して使うことができます。継続年度が終了したときは「精算報告書」を作成し、議会に報告することが定められています。

9月議会の議案書を閲覧できます

9月定例議会に上程された議案書は、役場3階の議会事務局で閲覧することができます。

それぞれの議案について、詳しく知りたい場合は、役場3階の議会事務局までお越しください。

TEL 74-1001 (内線302)

9月定例議会では、こんなことが決まり

	案 件	結 果	
条 例	斑鳩町土地開発基金条例の一部を改正する条例について	満場一致で可決	
	斑鳩町保育の実施に関する条例の一部を改正する条例について		
	斑鳩町子ども医療費助成条例の一部を改正する条例について		
	斑鳩町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について		
予 算	平成22年度斑鳩町一般会計補正予算(第6号)について	満場一致で可決	
	平成22年度斑鳩町国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)について		
	平成22年度斑鳩町公共下水道事業特別会計補正予算(第1号)について		
	平成22年度斑鳩町介護保険事業特別会計補正予算(第1号)について		
	平成22年度斑鳩町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)について		
決 算	平成21年度斑鳩町一般会計歳入歳出決算の認定について	賛成多数で認定	7ページに賛否の討論
	平成21年度斑鳩町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について	満場一致で認定	
	平成21年度斑鳩町老人保健特別会計歳入歳出決算の認定について		
	平成21年度斑鳩町大字龍田財産区特別会計歳入歳出決算の認定について		
	平成21年度斑鳩町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について		
	平成21年度斑鳩町介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について		
	平成21年度斑鳩町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について		
人 事	人権擁護委員の推薦について意見を求めることについて(その1)(その2)	満場一致で 適任と答申	川本佳世子氏、上田昌功氏が適任であるとの意見を答申しました。
	斑鳩町教育委員会委員の任命について同意を求めることについて	満場一致で同意	9月30日の任期満了に伴い、新たに坂本りえ子氏を任命することに同意しました。
	斑鳩町公平委員会委員の選任について同意を求めることについて(その1)(その2)		中野敦司氏・福井方子氏を選任することに同意しました。
	斑鳩町公文書開示審査会委員の委嘱について同意を求めることについて(その1)(その2)(その3)(その4)(その5)		葛本博美氏、長坂成行氏、中西達也氏、向平 菱氏、吉川裕子氏を選任することに同意しました。

平成21年度 決算を認定

どう活かされたか、まちのお金

本会議より付託を受けました平成二十一年度斑鳩町一般会計及び特別会計の歳入歳出決算を審査するため、九月六日、八日、九日の三日間にわたり、予算決算常任委員会を開催しました。決算審査の質疑では、委員から百数十問もの質問や意見が出されました。今回はその抜粋を掲載し、ご報告します。

一般会計

委員会では、監査委員より一般会計及び各特別会計について、それぞれ関係法令に準拠して調製され誤りがないものと認められたこと、また各基金の運用状況についても計数に誤りなく、適正に運用されていると認められたとの報告を受けました。

委員会では、この報告の後に、決算の認定のための審査を行いました。

実質的な収支額は、六億六千三百三十九万円の黒字になりました。

金などが増額となったことから、対前年度比七億千九百三十三万円の大幅な増加となりました。

歳入

自主財源の中心である町税は、前年度と比較して、町民税、固定資産税、たばこ税が大きく減少したことにより、町税全体で、前年度より九千八百二十五万円減少しています。

国庫支出金は、地域活性化・経済危機対策臨時交付

歳出

歳出決算額は、前年度よりも五億六千三百二十二万円減少しています。

斑鳩文化財センター整備事業や、定額給付金給付事業、新型インフルエンザ対応、学校情報通信技術環境整備事業などが、前年度より増えています。

平成21年度 決算総括表

会計別	歳入	歳出
一般会計	84億3,453万円	77億3,472万円
特別会計	国民健康保険事業	33億5,609万円
	老人保健	2,402万円
	大字龍田財産区	73万円
	公共下水道事業	14億2,563万円
	介護保険事業	15億6,924万円
	後期高齢者医療	2億6,667万円
合計	146億5万円	143億7,710万円

(1万円未満 四捨五入)

Q & A

総合計画の実行性は？

Q 第四次総合計画を昨年度と今年度で策定されているが、第三次総合計画の事業はすべて実行されたのか。

A 第三次総合計画の総括から、都市基盤整備や子育て



▲小学生も斑鳩文化財センターを学習に活用（写真は斑鳩小学校6年生）

て施策は順調に実施できたものの、観光・商工事業の遅れを確認しているので、第四次総合計画では観光・商工事業を重点的に取り組んでいきたいと考えています。

災害備蓄品の管理は？

Q 万一の災害に備えて災

害物資を備蓄されているが、賞味期限など、どのように管理されているのか。

A アルファ化米や乾パンは五年、粉ミルクは二年が賞味期限となっております。適宜更新しています。保管場所は、小・中学校の空き教室や生き生きプラザ斑鳩などに常温保管しています。

高齢者世帯の支援は？

Q ひとりぐらし高齢者を対象に実施している「緊急通報装置の設置」は、対象者の人数に比べて利用者が少ないのではないのか。

A 愛の訪問事業や配食サービス、地元での見守り等もあわせて、総合的に高齢者世帯の生活を支援しています。

延長保育の給食費は？

Q 保育園の延長保育の給食の委託料は一食あたりいくらだったのか。

A 延長保育の給食費は平成二十一年度は委託しており、一食あたり三千八百六十七円と高額であったことから、今年度からは町が直営して延長保育の給食を提供しています。

乳幼児健診の受診率アップを

Q 二歳六カ月児健診の歯科健診の受診率が低い。保護者への動機付けがもっと必要ではないか。

A 今後、より早い時期から健診実施の周知をはかり、歯みがきの大切さを呼びかけてまいります。

ペットボトルは洗浄・乾燥してリサイクルに

Q ペットボトルのリサイクル率が十三%と低い原因は何か。ペットボトルはリサイクル経費を町で負担する必要がないのだから、できるだけ町民に呼びかけてほしい。



A ペットボトルは収集後町で保管していますが、カビ対策が重要です。このため、洗浄されていないペットボトルや乾燥させていないペットボトルはリサイクルできないものとして、その他プラスチック類として処理しており、リサイクル率が低くなってしまっているのです。今後も正しい排出方法を呼びかけてまいります。

商工会の経営指導を

Q 斑鳩町商工会は毎年三百万円の赤字を出しており、経営が心配である。町は商工会に補助しているのだから、もっと強い指導を望む。

A 人件費を抑えるなど、商工会の経営の指導をしてまいります。



▲小学校の教室の扇風機

中学校の教室にも扇風機を

Q 小学校、幼稚園は教室に扇風機がついていますが、中学校はまだついていない。中学校の扇風機の設置についてはどう考えているのか。

A 小学校は今年度に設置しましたので、来年度は中学校に扇風機を設置していきたいと考えています。

Q 都市計画道路・法隆寺線は残り一件の土地の買収が待たれるが、その見通しは？

A 地権者と数年来交渉を続けていますが、今後も地

権者から用地が買収できるよう努めてまいります。

一般会計決算認定について

反対意見

町長が会長を努める社会福祉協議会への事業委託について、同じ事業なのに昨年より金額が大幅に増額になっていた。補助金を減らしても委託料を増額して、小手先の数字の操作をしていることは見過ごせない。また、人事異動では、幼稚園教諭で採用した職員を何の相談もなく紙切れ一枚で突然一般職に異動させるという乱暴なやり方は強引すぎる。さらには、公金を支出する場合の根拠が明確でないものがある。細則についても根拠は必要である。

賛成意見

町財政は厳しい状況ですが、町民が安全で安心して暮らせるまちの実現に向け、妊婦一般健康診査の十五回実施や助産師・保健師による新生児訪問、小学校入学前までの乳幼児の入院医療費を含めた助成、新型イン

フルエンザワクチン接種の一歳から中学生の無料実施、小学校一年生の三十人学級編成の導入などの新たな施策に積極的に取り組まれ、成果を上げていると考え、認定に賛成します。

認定

このように反対意見・賛成意見がありました。採決の結果、賛成多数で認定すべきものと決しました。

国民健康保険事業特別会計

国民健康保険事業特別会計は、四億九千八百五十三万円の赤字となりました。このため、平成二十二年度の国民健康保険事業特別会計から不足分を充用しました。

人間ドックの助成状況は？

Q 人間ドックの助成の状況は。

A 二十一年度は定員を百名に増やしました。助成額

は二万円が上限で、実際にかかった受診額の二分の一としていきます。

認定

審査の結果、満場一致で認定すべきものと決しました。

老人保健特別会計

平成二十年四月から、医療給付等を後期高齢者医療制度に移行しました。移行前の診療分の月遅れ請求による医療費の給付が行われました。

認定

審査の結果、満場一致で認定すべきものと決しました。

大字龍田財産区特別会計

財産区財産（下司田池）の管理を行う特別会計です。

財産区の将来の展望は？

Q 今後の財産管理と、将来の処分等について、町は

どのように考えているのか。

A 現在、

下司田池の水で耕作されている人もおられるので、当面は財産区を存続せざるを得ないと考えています。

認定

審査の結果、満場一致で認定すべきものと決しました。

公共下水道事業特別会計

公共下水道事業は整備区域の拡大により、前年度より二百十件増の三千七百四件が利用可能となり、そのうち二千二十三件が公共下水道を利用されています。

下水道に接続しやすく

Q 排水設備改造の資金として、融資あつせんと利子補給を実施されているが、いくら融資してもらえるのか。



A 一件あたり六十万円までで、五年間で返済いただく制度です。

認定

審査の結果、満場一致で認定すべきものと決しました。

介護保険事業特別会計

介護保険事業特別会計は、三千九十万円の黒字となりました。このうち、国庫支出金などは実績に応じて、平成二十二年度会計で償還することになっており、その他は、介護保険給付費準備基金に積み立てられます。

認定

審査の結果、満場一致で認定すべきものと決しました。

後期高齢者医療特別会計

後期高齢者医療特別会計は、八十七万円の黒字となりました。超過分は出納整理期間中に収納した保険料

等で、平成二十二年度会計に繰り越しし、広域連合に納付すること等で精算することになっていきます。

資格証の発行は？

Q 奈良県後期高齢者医療広域連合で、保険料の滞納のため、保険証を発行せずに、資格証を発行しようとする動きはあるのか。

A 現在、斑鳩町においても、奈良県の広域連合においても、資格証の発行は行っていない。

認定

審査の結果、満場一致で認定すべきものと決しました。

なお、町に対して、決算審査の三日間で出された各委員の意見を真摯に受け止め、今後精査し、平成二十三年度予算に反映させることを、委員会として要望しました。

(嶋田委員長記)

平成21年度斑鳩町一般会計歳入歳出決算の認定について (9月24日本会議)

【反対意見】 木澤議員

社会福祉協議会については、町長が会長をしている。さらに退職した町の職員が連続して事務局長の職につくといったことを疑問視する声があり、体制的にきちんと区別をするべきです。また、地域包括支援センターについては、体制の充実を含め、もっと意識をもって運営に当たっていただきたいと思います。また、社会福祉協議会が生き生きプラザに移転する際に、これまで福祉団体などが受けられていたサービスが受けられなくなったという話をお聞きます。実情に即して、住民の福祉活動を支援するという立場での運用を強く求めます。

次に、幼稚園の園長配置や人事にかかわる問題では、元々専門職として採用された職員に対して、事前になんの相談もなく、突然、一般職に異動させるといったやり方に対しては、いろいろな面で問題があると思います。さらに、幼稚園の園長を臨時職員という位置づけにしたことについて、本当に幼稚園教育の充実につながるのか、非常に疑問があります。きちっとした位置づけをし、職務をまっとうしていただくべきです。

今後も住民サービスや福祉は後退させないという立場でこれまで以上にがんばっていただきますよう要望いたします。

【賛成意見】 宮崎議員

少子高齢化や人口減少社会が到来するなか、子育て支援や災害対策、環境問題への対応など時代の要請に応えるための費用は増大する一方、厳しい経済情勢下にあって町税等の収入増も見込めない厳しい状況下にありますが、21年度決算は、直面する課題に着実に取り組むとともに新たな施策にも積極的に取り組まれています。

特に、安心して子どもを産み育てる環境づくりとして、妊婦一般健康診査の助成を15回に拡大実施するとともに、小学校就学前の乳幼児の医療費と小学生の入院医療費の助成や新型インフルエンザワクチン接種を中学生まで無料実施、また、小学校1年生の30人学級編成を実現するなど、女性の社会進出、就労と育児の積極的支援に努められています。さらに、高齢者・障がい者の福祉サービスや健康づくりなどの健康福祉施策、環境対策を充実させるとともに、学校校舎耐震補強工事やJR法隆寺駅前周辺整備、文化財活用センターの開館など、住民福祉の向上に真剣に取り組まれていると評価します。

今後も財政健全化を図りながら、子育て支援や、高齢者・障がい者福祉に積極的に取り組まれることを要望し賛成意見とします。

政府関係機関等に 4件の意見書を送付

9月定例会では、委員会から提案された「米価の大暴落に歯止めをかけるための意見書」など、4件の意見書が可決され、政府関係機関等に意見書を送付しました。

米価の大暴落に歯止めをかけるための意見書

昨年、わずかな米の過剰ではじまった需給のゆるみが、政府が適切な対策をとらなかったために雪だるま式に広がり、米価は9ヶ月連続で下落し、ついに6月の相対取引価格は史上最低まで落ち込んでいます。

この間、政府の需要予測の狂いもあり、6月末在庫は316万トンにもふくれ上がる一方、豊作が予想される今年の作柄とも相まって、「米過剰」は一層、深刻化しようとしています。

超早場米の出荷がはじまりましたが、宮崎県のコシヒカリの生産者概算金は前年より2,000円も低い1万円となり、それに続く早場米地帯の概算金も千葉県、大分県などで1万円と報じられるなど、深刻な事態になっています。

市中相場は新米で12,500円程度といわれ、売れ残っている09年産米は、さらにそれ以下の価格にならざるを得ません。現状を放置すれば、米の需給の混乱も米価の下落もかつて経験したことのない異常事態になることは必至とされます。

この数年来、生産費を大幅に下回る米価が続いている中で、生産者の努力は限界を超えており、さらなる米価の下落は、日本農業の大黒柱である稲作の存続を危うくするものです。それはまた、国民への主食の安定供給を困難にし、政府が進めている米戸別所得補償モデル事業さえも台なしにするものと考えます。

私たちは、米の需給を引き締めて価格を安定・回復させるためには、政府が年産にかかわらず、過剰米を40万トン程度、緊急に買い入れるとともに、政府が抜本的な農業政策の見直しを行うことが必要であると考えます。

以上の趣旨から下記の事項についての意見書を提出します。

記

1. 年産にかかわらず40万トン程度の買い入れを緊急に行うこと
2. 米価の下落対策を直ちに講ずること
3. 政府において、抜本的な農業政策の見直しを行うこと

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

平成22年9月24日

奈良県斑鳩町議会

免税軽油制度の継続を求める意見書

これまで農家の経営に貢献してきた免税軽油制度が、地方税法の改正によって、このままでは2012年(平成24年)3月末で廃止される状況にあります。

免税軽油とは、道路を走らない機械に使う軽油については軽油引取税(1リットルあたり32円10銭)を免税するという制度で、農業用の機械(耕耘機、トラクター、コンバイン、栽培管理用機械、畜産用機械など)や船舶、倉庫で使うフォークリフト、重機など、道路を使用しない機械燃料の軽油は、申請すれば免税が認められてきました。

免税軽油制度がなくなれば、いまださえ困難な農業経営への負担は避けられず、軽油を大量に使う畜産農家や野菜・園芸農家をはじめ、農業経営への影響は深刻です。制度の継続は、地域農業の振興と食糧自給率を向上させる観点からも有効であり、その継続が強く望まれています。

以上の趣旨から下記の事項についての意見書を提出します。

記

1. 免税軽油の制度を継続すること

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

平成22年9月24日

奈良県斑鳩町議会

子宮頸がん予防ワクチン接種の助成制度の創設を求める意見書

子宮頸がん予防ワクチン（HPVワクチン）は、平成21年10月に国内で初めて承認され、同年12月から接種が開始されました。

わが国の20歳代から30歳代の女性に発症する悪性腫瘍のうち、子宮頸がんは上位を占めており、年間約1万5千人が罹患し、約3千5百人が死亡する、女性特有のがんです。

一方で、近年、子宮頸がんの発症は、そのほとんどがヒトパピローマウィルス（HPV）の感染が原因であることが明らかになっており、一生のうち、女性の8割近くがこのHPVに感染することから、適正年齢での予防ワクチン接種は、子宮頸がん罹患に対する高い予防効果を期待できます。

しかしながら、現在、予防接種の普及は十分進んでおらず、その原因の一つに、子宮頸がん予防ワクチンの接種費用が、5万円前後と高額であることが挙げられます。

今後、予防ワクチン接種を普及していくためには、子宮頸がん予防ワクチンに対する正しい理解の促進とともに、接種費用に係る助成制度の創設が必要です。

子宮頸がんは、女性の生命を脅かすばかりでなく、妊娠や出産の機会までも奪うこととなり、将来の医療費削減対策や少子化対策としての側面からも、早期に予防ワクチン接種の普及を図るべきです。

本来、子宮頸がん予防ワクチン接種は、国の予防ワクチン行政に位置づけ、国の責任で統一的に等しく実施すべきものです。

よって、次の事項について強く要請します。

記

- 1 国による全国一律の公費負担、あるいは公的医療保険制度の適用により、ワクチン接種に係る費用負担の軽減措置を講じること。
 - 2 特に、接種効果の高い10歳代前半の女兒への接種を全額公費負担により早期に実現すること。
- 以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

平成22年9月24日

奈良県斑鳩町議会

子宮頸がん予防ワクチン接種への助成を求める意見書

子宮頸がん予防ワクチン（HPVワクチン）は、平成21年10月に国内で初めて承認され、同年12月から接種が開始されました。

わが国の20歳代から30歳代の女性に発症する悪性腫瘍のうち、子宮頸がんは上位を占めており、年間約1万5千人が罹患し、約3千5百人が死亡する、女性特有のがんです。

一方で、近年、子宮頸がんの発症は、そのほとんどがヒトパピローマウィルス（HPV）の感染が原因であることが明らかになっており、一生のうち、女性の8割近くがこのHPVに感染することから、適正年齢での予防ワクチン接種は、子宮頸がん罹患に対する高い予防効果を期待できます。

しかしながら、現在、予防接種の普及は十分進んでおらず、その原因の一つに、子宮頸がん予防ワクチンの接種費用が、5万円前後と高額であることが挙げられます。

今後、県においては、予防ワクチン接種を県下市町村に普及していくために、子宮頸がん予防ワクチンに対する正しい理解の促進とともに、接種費用に係る助成制度が必要です。

子宮頸がんは、女性の生命を脅かすばかりでなく、妊娠や出産の機会までも奪うこととなり、将来の医療費削減対策や少子化対策としての側面からも、早期に予防ワクチン接種の普及を図るべきです。

よって、県において、子宮頸がん予防ワクチン接種に対する市町村への助成制度を創設されることを要請するとともに、県教育委員会において、がん教育と健康教育に積極的に取り組まれることを要請します。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

平成22年9月24日

奈良県斑鳩町議会

一般質問 Q &A

本定例会での一般質問は、9月2日・3日の両日、8人の議員が行いました。質問と答弁の内容を要約し、お知らせします。

2日間で延べ9人の方が傍聴に来られました。

「悲鳴を上げる 施設について」



木田守彦 議員

議員 斑鳩町の最重要施設であると位置づけられる衛生処理場（焼却場）と鳩水園（し尿処理施設）の設置時における耐用年数は何年でしたか。

また設置時に施設の地元住民への説明会で耐用年数について説明されましたか。

住民生活部長 衛生処理場は昭和五十七年に設置、鳩水園は昭和五十二年に設置されております。両施設の耐用年数については、約三十年といわれております。現在、稼働開始から三十三年を経過した鳩水園、二十八年を経過した衛生処理場については、毎年、定期検査や計画的な補修を行うことにより、耐用年数を延ばすよう運用しています。

また設置当時、耐用年数は約三十年と地元で説明していたものと考えています。

議員 今後とも両施設が順調に操業を続けられる手段について、町はどう考えていますか。

住民生活部長 衛生処理場は、毎年、予算措置をして、適切な維持管理と施設の延命化に努めています。今後もごみの減量化、資源化を推進し、焼却ごみを限りなく少なくする施策を実施してまいります。

鳩水園は、公共下水道の普及により処理量が減少しても、し尿処理が全くなくなることはないため、施設を維持していく必要があります。今後も、計画的な補修整備、施設の点検等を実施し、施設の延命化を図ってまいります。

議員 委託も含めて、経費削減について、町はどのように考えていますか。

住民生活部長 鳩水園では、



▲衛生処理場



鳩水園▶

運転管理業務、し尿収集運搬業務を委託しています。またごみ収集業務についても平成二十年度から一部業務を委託しており、更なる経費の削減と業務の効率化に努めてまいります。

議員 今の施設がこれからも末永く運用できるように努力されることを要望します。

その他の質問
※ 八月二十七日の浸水被害について

議員 平成十二年から斑鳩町では、ごみ袋の有料化がスタートしていますが、町がごみ袋を有料化した目的はなんでしょうか。

住民生活部長 一般的には、ごみ有料化には財政負担の緩和とごみ減量化の二つの目的がありますが、当町では、後者のごみ減量化を目的としており、平成十一年度と比較すると家庭系廃棄物の排出量は、平成二十一年度では、約四十二%減少しています。

ごみ袋の値下げを



木澤正男 議員

議員 この間のごみ処理費用と町民のごみ袋購入にかかる負担の推移はどうなっているでしょうか。

住民生活部長 ごみ処理費用は有料化前の平成十一年度が約三億六千七百万円であったのに対し、平成二十一年度は約三億九千五百万円となっています。また、一世帯あたり

のごみ処理手数料の年間平均負担額は、有料化開始当初の平成十三年度は、三千五百二十五円であったのが、平成二十一年度には三千三百七十七円となっています。

議員 ごみ減量化が進んでも一定の処理費用がかかることや、また逆に、ごみ減量化が進むことでごみ袋の使用枚数が減り、住民負担が下がってきている点は理解しますが、それでもなお、多くの住民から「ごみ袋が高いのでなんとかしてほしい」という声があります。

現在、ごみの分別については住民の中に定着し、減量化についても大きく進んできていることから、有料化の目的は一定達成されたのではないのでしょうか。

有料化スタートから十年が経過しましたが、いまだに多くの住民から「ごみ袋が高い」という声があるのならば、ごみ袋の価格について検討し直す必要があると考えますがいかがでしょうか。

町長 私はごみ袋が高いとか安いとかいうお金の問題ではなく、ごみを出さない、できるだけすくなくする、そういう努力を以前からずっと言ってきています。

その他の質問
 ※ 子ども・若者育成支援推進法について
 ※ 地上デジタル放送への対応について



▲可燃ごみ

子育て応援条例の制定を！



議員 里川 宜志子

いい、安心して子どもを生育させることができる環境の整備を図るとともに、町民の生活向上と地域社会の発展に結びつくことを目的として制定されるものと考えています。

斑鳩町では、「次世代育成支援後期行動計画」を策定し、未来を担う子どもたちが、心豊かに明るく健やかに育つまちづくりを進めています。現在策定中の第四次斑鳩町総合計画においても、子育て支援については、さまざまな施策を盛り込んでいく予定です。

条例については近隣市町村の動向等も注視しながら研究していきたいと考えています。

議員 それらの計画のなかで、将来見込まれている人口減少や、ますます厳しくなる少子高齢化を少しでもくい止める施策として、「斑鳩町で子育てしたい」と思う若い世代の人がたくさん転入して来てくれることを願っている。

議員 斑鳩町では、子育て支援の取り組みが非常に進んできていることは評価できているが、あと一歩でも二歩でも前に進めて、他の自治体でも取り組まれているような、「子育て応援条例」や「子育て支援条例」などの制定を行うことを考えてはどうか。

住民生活部長 子育て支援条例は、急激な少子化の進行、家庭・地域を取り巻く環境の大きな変化の中での子育てなどの支援を推進する施策を行う

議員 生活保護の方が病院に行く場合の手続きはどうか

ているのか。

住民生活部長 一般的な健康保険証にあたるものはなく、事前に受診する医療機関を申し出て、個人ごとに、また、医療機関ごとに、診療依頼書の交付を受けます。その後、福祉事務所から医療機関に医療券が送付され、診療依頼書を窓口を持って行き受診するしくみです。

議員 持病があつて、毎月決まって病院に行く場合はともかくとして、小さい子どもは急病になることも多い。また、修学旅行に行く子どもにも影響がある。今後は医療証の発行に取り組むべきである。



▲生き生きプラザ斑鳩で親子が交流

子宮頸がん予防ワクチンの公費助成を



議員 紀 良 治

助成が実施されていますが、斑鳩町ではどのように考えていますか。

住民生活部長 子宮頸がん予防ワクチンの公費助成については、国が来年度予算の特別枠で百五十億を盛り込むこととされていますが、詳細は明らかになっていません。

斑鳩町においては研究するなかで、国や他の自治体の動向も見すえながら、新年度からの一部助成実施に向け、前向きに取り組んでまいります。

議員 奈良県PTA協議会では、子宮頸がん予防ワクチンが思春期前の女子への接種であることから、保護者の立場でワクチンの効果や接種の方法などを十分理解し、子どもに説明できるように研修をしています。

子宮頸がん予防ワクチンは三回の接種が必要で、一回一万五千円から二万円と高額な費用が必要になります。現在、全国で百五十三の市町村で子宮頸がん予防ワクチンの公費

農作物に被害を及ぼす

有害鳥獣について

議員 特定外来種アライグマが増え、農作物被害が増えてきていますが、今後の対策について伺います。

都市建設部長 斑鳩町ではアライグマ防除実施計画を策定し、国へ計画の確認申請を行っています。

これにより狩猟免許を有しない人でも、一定要件を満たすことにより捕獲が可能になることから、計画的で効果的な捕獲を実施できると考えています。

アライグマは
特定外来種生物に指定されています！



旧保健センターの活用について

(現・役場北庁舎)

議員 吉 晴



議員 伴 吉 晴

議員 住民の多くの方々から旧保健センター（現在の北庁舎）は、うまく利用されているのかという疑問の声を聞くことがあります。北庁舎の運営状況はどのようになっていますか。

総務部長 平成二十年に保健センターが生き生きプラザ斑鳩に移転した後、旧保健センターの建物は、本庁舎に不足していた会議室や相談室、倉庫等を確保し、役場の事務事業のため、役場の北庁舎として活用を図ってまいりました。

現在、北庁舎は主に会議室として利用しており、四つある各会議室の稼働率の平均は、平成二十年度が三十四・六％、平成二十一年が五十一・六％、平成二十二年度が五十一・五％です。

議員 現在は主に会議室として利用されていますが、今後住民が行政サービスを受けやすくなるような北庁舎の利用方法を考えておられるのか伺います。

総務部長 北庁舎は主に会議室等に利用していることから、住民の皆様からは未利用のまま放置されているように見えてしまうかもしれませんが、これまで会議室の不足のため苦慮していた会議日程等の調整が円滑に行えるとともに、長期間の会場の確保が可能となりました。

議員 旧保健センターは、役場北庁舎としての現在の活用方法により行政運営の効率化を図れたと考えていますが、今後より一層、有効な活用方法がないか検討してまいります。



▲役場北庁舎(旧・保健センター)

議員 私は、北庁舎にどこか一つの課を移転することにより、本庁舎と北庁舎に一体感が増し、住民が利用しやすくなるのではないかと考え、提案します。
今後ますます住民にとって便利が良くなるように要望いたします。

その他の質問

※ ウインドウズ二〇〇〇のサポートが七月十三日に終了したが、住民情報の漏えいの危険性はないのか。また機種更新はいつ考えているのか。

町営住宅の多回数落選者に配慮を



中川靖広 議員

議員 以前に質問した町営住宅入居申込書類の簡素化についてお尋ねします。

都市建設部長 入居の申込については、町の規則により定めており、申込書添付書類としては、「住民票の謄本」「所得に関する証明書」「市町村民税の納税証明書」「その他町長が必要と認める書類」です。これらの添付書類は、国から「公営住宅の入居審査等の適正な実施」について通達

があり、受付時に入居資格を確認する最も基本的な書類であると考えています。
このため、書類の簡素化については、これまで添付を必要としていた「現住所付近の略図」について省略できることとし、平成二十二年八月募集より省略しています。

議員 多回数落選者への優遇措置についてお尋ねします。

都市建設部長 今回の募集より多回数落選者への優遇措置を行っていません。その条件としては、直前の募集で連続二回以上落選している人としています。優遇措置の方法は、①募集戸数が二戸以上四戸未満の場合には抽選倍率による優遇とし、②募集戸数が四戸以上の場合には、優先枠を一戸設け、抽選の際にはまずこの優先枠の抽選を行います。次に優先枠の落選者も含めて、一般枠の抽選を行うことにより優遇を図っています。

議員 今回の募集でどのような成果があったのですか。

都市建設部長 多回数落選者で応募された方は一名で、実態調査の結果、問題がなければ、その方に入居していただくこととなります。

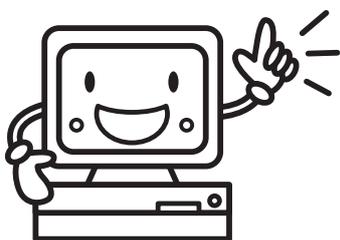
議員 何度も落選された方が、優遇措置を設けていただけただこと、入居できることについては、私も本当にうれしく思います。

その他の質問

※ 事業用町指定ごみ袋の強度について
※ 事業用町指定ごみ袋の価格について



▲町営住宅



議会だよりが斑鳩町ホームページで閲覧できます。

斑鳩町ホームページ (<http://www.town.ikaruga.nara.jp>)で、町議会をクリックしてください。

NO.52 (平成19年5月1日発行) からのバックナンバーも閲覧できます。

子宮頸がん予防ワクチンの 公費全額助成と学校現場での 「がん教育」の推進を



飯高 昭二 議員

会とも協議しながら、また教育委員会等と連携し、新年度から一部助成実施に向けて、前向きに取り組めます。
議員 国は、費用の三分の一を補助することであり、今後、「全額助成」できるよう要望します。

また子宮頸がんは、ワクチン接種と定期検診により「予防できる唯一のがん」です。教育現場において保護者への正確な情報や啓発や対象者となる子どもたちに、がんに対する正しい知識を身につけることが重要と考えますが。

議員 子宮頸がんを発症された方は、治療で命が助かって女性としての喪失感、再発の恐怖、また金銭的な負担など一生抱えなければならぬ状況が続くとの声があり、今年の三月定例会の一般質問で「女性の健康を守り、医療費の抑制などに効果」があることからワクチン接種の公費助成について質問。今後、調査研究をするとのことでしたが、その後の取り組みを伺う。

住民生活部長 今後、町医師

議員 肺炎球菌は、耳で感染症をおこすと「中耳炎」に、肺に入り込んで「肺炎」に、

「小児用肺炎球菌ワクチン」
で子どもの命を守れ!



脳や脊髄を覆っている髄膜の中に入り込み「細菌性髄膜炎」を発症するなど、子どもの健康・命を奪う、非常に怖い病気です。ワクチン接種の認識と公費助成について伺う。
住民生活部長 今年二月より接種が可能となり、ワクチンの普及により、欧米と同様に細菌性髄膜炎にかかる子どもが減少すると認識しています。また公費助成については、調査研究を踏まえ検討します。

その他の質問

※町内浸水箇所の「早期浸水対策」の実施について

※救急医療キットの活用について

議会は役場3階です

議会を傍聴してみませんか！

斑鳩町議会では、「開かれた議会」をめざしています。みなさんの選んだ議員が、議場や委員会でのどのような発言をし、行政はどう答えているのか、みなさんご自身でお確かめください。

また、会議録は庁舎ロビーや公民館、斑鳩町立図書館でも閲覧できます。

みなさんのご意見やご要望をお寄せください。

(宛 先) 〒636-0198 斑鳩町法隆寺西3-7-12
斑鳩町議会事務局
TEL 74-1001 FAX 74-1011

役場3階・議会事務局前に、ご意見箱「こだま」を設置しています。

平成二十二年(二〇一〇年)

十一月委員会の予定

- 15日(月) 建設水道常任委員会
- 18日(木) 厚生常任委員会
- 19日(金) 総務常任委員会
- 24日(水) 全員協議会
- 24日(水) 議会運営委員会
- 25日(木) 予算決算常任委員会
- 30日(火) 議会運営委員会

「斑鳩バイパスと まちづくり」



吉野 俊明 議員

よく見極めて、次の世代へバトンを渡す準備をしなければならぬ。以上を踏まえて町の見解をお聞きしたい。

議員 多くの地方都市でバイパス道路を整備すると、一時的に渋滞が解消されるが、その後周辺地域からの車が流れ込む誘発交通が活発となり、

渋滞が追いつく結果となっており、渋滞を解消することはできないと理解し、むしろ道路に渋滞がないことのほうがインフラ（自動車道などの基盤施設）に過剰投資をしている証拠であり、財政難の折からそのほうが問題である。むしろ、多少の渋滞はプラスであると認識すべきではないか。

町では「斑鳩バイパス」は災害時のライフライン（住民の生活を守る命綱となる）と言っているが、地震などの災害時に道路や橋などが破壊され使い物にならなくなってしまうというニュースも報道

されている。ここ三十年以内に大地震が起こる可能性は六十〜七十%と言われている。

町の中央に位置するバイパス用地を、災害時のヘリコプターによる空からの救援基地として整備すれば、住民の安心の支えになるのではないか。

バイパスなどの道路の整備が進めば進むほど、車の利用者はより遠方の商業施設等に吸い取られ、地域の「生活施設」が寂れて、車を使えない高齢者や障がい者等にとってますます暮らしにくい町になってしまふ。日本の都市計画は、高度成長期に人口増を前提として形成されたものであり、現在の人口減少、少子高齢化社会にはそぐわないものとなってきている。

「誰のためのまちづくりか」



▲岩瀬橋から三室山を望む。

市計画の専門委員、賛成反対の委員も入れて検討されたもので都市計画道路としての重みがある。斑鳩の生命財産を守るためには必要なものだと思います。

その他の質問
※男女共同参画時代の男性の育児休暇について等

臨時議会の予定

11月30日(火)

十二月定例議会の予定

6日(月) 本会議初日

(委員長報告、提案説明、議案上程)

広報発行常任委員会

9日(木) 一般質問

10日(金) 一般質問

13日(月) 予算決算常任委員会

14日(火) 建設水道常任委員会

15日(水) 厚生常任委員会

16日(木) 総務常任委員会

17日(金) 議会運営委員会

22日(水) 本会議最終日

(委員長報告、討論、表決)

なお、開会時間は本会議、委員会とも午前九時（11月24日の議会運営委員会は全員協議会終了後、11月30日の議会運営委員会は臨時議会終了後、12月6日の広報発行常任委員会は本会議終了後）に予定しています。

日程・時間は、一部変更になる場合があります。詳しくは議会事務局にお問い合わせください。

議会事務局

TEL 74-1001 内線302

建

設水道常任委員会

九月十日、全委員出席のもと、本会議から付託を受けた陳情第四号・陳情第五号について慎重に審議した結果、いずれの陳情書も満場一致で採択することに決しました。また、都市基盤整備事業に関するものについてなど、継続審査案件について調査しました。その主な内容について報告します。

委員会付託議案について

◎陳情第四号、米価の大暴落に歯止めをかけるための要望について

(陳情の要点)

ここ数年来続いている米価の下落は、日本農業の大黒柱である稲作の存続を危うくしている。米価を安定させるために、国に対して、①年産にかかわらず四十万トン程度の買入れを緊急に行うこと、②米価の下落対策を直ちに講ずることを国に対して要望してほしい。



※関連記事を八ページに掲載

(審査結果)

政府が農業政策の抜本的な見直しを行うことを要望項目につけ加えて、満場一致で採択しました。

◎陳情第五号、免税軽油制度の継続を求める要望について

(陳情の要点)

道路を走らない農業用機械(コンバイン・トラクターなど)に使う軽油について、軽油引取税を免税するという制度であるが、地方税制度の改正でこれが平成二十四年三月末で廃止となれば、農業経営への影響が深刻になる。このことから、免税軽油制度を継続するよう国に対して要望してほしい。

(審査結果)

満場一致で採択しました
※関連記事を八ページに掲載

継続審査案件について

◎都市基盤整備事業に関するものについて

① 公共下水道事業に関するものについて

公共下水道事業予定工事は順調に進んでおり、八月末現在の接続状況は二千百三十二

件で、今年度の増加件数は百九件であると報告がありました。

委員より、若干の質疑があり、答弁がされています。

② 都市計画道路の整備促進に関するものについて

いかるがパークウェイについて、稲葉車瀬区間の工事は、順調に進捗している。五百井・興留区間については、民主党県連に事業の進捗をお願いしたとの報告がありました。委員より若干の質疑があり、答弁がされています。

③ JR法隆寺駅周辺整備事業に関するものについて

駅北口五号線の西側の補償調査をすべて完了したと報告がありました。

各課報告事項

・上下水道料金システムの更新について

・斑鳩町景観計画の策定について

・斑鳩町営住宅入居者の募集状況について

・浸水対策検討会議の設置について

(内容) 局地的な豪雨に対応していくため、総務課・都市建設部三課・下水道課で組織する「浸水対策検討会議」を立ち上げ、今後の対策を検討していく。
(質疑・意見) 浸水対策は専門家の意見も取り入れ、抜本的に対策していくべきである。

なお、委員会終了後、浸水被害箇所での現地調査を実施しました。
(浦野委員長記)



▶浸水被害箇所の現地調査

9月14日全委員出席のもと、本会議から付託を受けた議案及び陳情書を審議した結果、いずれの議案も原案どおり可決・陳情書については採択することに決しました。また、継続審査案件についてなど調査しました。その主な内容について報告します。

厚生常任委員会

委員会付託議案について

◎議案第三十一号 斑鳩町保育の実施に関する条例の一部を改正する条例について

国の保育料徴収基準表の改正に伴い、町も階層区分を現行の十階層から十一階層に、入所月の年齢区分の取扱いを改正するものです。

◎議案第三十二号 斑鳩町子ども医療費助成条例の一部を改正する条例について

医療費の助成の対象を中学生まで拡大して実施していますが、現在、領収書を添付した請求書を提出していただいているものを、平成二十三年一月診療分から自動償還払いできるように取扱いを改正するものです。



◎議案第三十四号 ハイブリッド塵芥収集車（ロータリープレス車）購入について

地球環境への負担軽減を図るため、電気モーターとディーゼルエンジンで走行できるハイブリッド塵芥収集車を、三菱ふそうトラック・バス（株）近畿ふそう奈良より契約金額七、八〇一、五〇〇円で購入するものです。

◎陳情第六号 子宮頸がん予防ワクチン接種の公費助成を求める要請書について

町は、できるだけ来年度に向けて中学一年生から中学三年生に対し全額補助の方向で考えていきたいとの意向を示されていることから、満場一致で陳情を採択しました。また、町の負担軽減を図るためにも、国と県に対し、助成制度を創設するとともに、がん教育や健康教育に積極的にとりくむよう意見書を委員会発議で提出しました。

（意見書を九ページに掲載）

継続審査案件について

◎環境保全及びごみ減量化・資源化の推進に関することについて



10月1日から、木くず・草類の分別収集がはじまりました。

①事業系ごみの減量化対策について

搬入登録されている事業所は、九月十二日現在で百十八事業所です。事業系ごみの搬入量では、昨年の同時期より二十三・六％・二十五トン減少しました。また、事業系ごみ減量化の啓発チラシを町内全事業所に再度配布したとのことです。

②家庭の木くず・草類の分別収集について

十月一日からの実施に先立

ち、八月号広報や、「斑鳩町のごみ出し方・分け方の改訂版」、平成二十二年度後半のごみ・資源物収集日一覧表を各家庭に配布して周知をはかったとのことです。

③紙おむつ専用袋の無料配布の検討について

子育て支援や家族介護の支援として、当委員会として要望していた「紙おむつ専用袋の無料配布」について、平成二十三年四月実施に向け研究しており、次回委員会に相談したいとのことでした。

各課報告事項

- ・健康づくりに関するアンケート調査結果について
- ・新型と季節性を混合したインフルエンザワクチン接種について

などの報告があり、一定の審査をしました。

（辻委員長記）



総務常任委員会

九月十五日全委員出席のもと、本会議から付託を受けた議案を審議した結果、いずれの議案も原案どおり可決することに決しました。また、継続審査案件「斑鳩町における歴史的史跡等の発掘調査、整備保存に関する事」について調査しました。その主な内容について報告します。

委員会付託議案について

◎議案第三十号、斑鳩町土地開発基金条例の一部を改正する条例について

(結果) 満場一致で可決

◎議案第三十三号、斑鳩町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について

(結果) 満場一致で可決

◎陳情第三号、国史跡藤ノ木古墳前の景観保持のための土地検討のお願いについて

この陳情は、藤ノ木古墳南側の私有地について、国史跡周辺景観保持のための土地として、公有地を買収してもらう価値があるのかどうか検討してほしいというものでした。

この陳情を審議した結果、不採択となりましたが、委員会として、町に対して次のように提言しました。

「斑鳩町における歴史的史跡等の重要性については、当

委員会においても十分に認識し、継続的に調査・研究の対象として審査している。史跡周辺景観保持についても同様に認識し、審査の対象としてきている。今回、陳情されている藤ノ木古墳の景観保持についても、その重要性は十分に認識している。しかし、歴史的遺産の景観の周辺環境保持については、この土地だけの問題ではなく、古墳の周囲、すべてを含めて検討していただくべきことであろう。理事者におかれましては、各現行法のもと、史跡の周辺環境保持をどのように対処していくのか、調査・研究されることを望むものである。」

(結果) 満場一致で不採択

継続審査案件について

◎斑鳩町における歴史的史跡等の発掘調査、整備保存に関する事について

斑鳩文化財センターの秋の特別展として「斑鳩の古墳展」と題し、文化財保護強調週間

中の十一月三日から二十八日まで開催を予定していることなどの報告がありました。

各課報告事項について

- ・コンビニ収納等検討会議の設置について
- ・浸水対策検討会議の設置について
- ・職員採用試験の申し込み状況について
- ・町民プールの利用状況について
- ・斑鳩小学校への落雷があり、その被害状況と今後の復旧の予定について
- ・中央公民館改修工事の実設計の計画について
- ・今年度の運動会の熱中症対策について

などの報告に対し、質疑・意見があり、町から一定の回答がありました。

青少年野外活動センターの進路入路崩落について

今年七月十四日の大雨により進路入路の崩落がありました

青少年野外活動センターの現地調査を、委員会として行いました。

委員から、これまでの青少年野外活動センターの被災の状況や安全性の確保、毎年の利用者数等の質疑がありました。また、町より、今年度の修復の予定とともに、今後の事業の見直しについては、県下の状況を見ながら、来年一年で一定の結論を出したいと説明がありました。

(伴委員長記)



▶青少年野外活動センターでの現地調査

9月定例会で、当委員会は平成21年度
の一般会計及び各特別会計決算の審査を9
月6, 8, 9日の3日間にわたり行いまし
た。その概要については、4ページで報告
しています。本欄では、9月16日に審査
を行いました平成22年度一般会計補正予
算及び4つの特別会計補正予算について報
告します。



算決算常任委員会

委員会付託議案について

◎平成二十二年度斑鳩町一般 会計補正予算(第六号)につ いて

既定の予算総額に歳入歳出
それぞれ八億六千三百二万八
千円を追加し、八十二億四千
七百三十七万二千円とするも
のです。

歳入の補正は、地方特例交
付金で六百二十六万四千円の
減額補正、地方交付税で二億
八千八百四十四万七千円の増
額補正、「活力あふれる市町
村応援補助金」として七百五
十万円の増額補正、町債で三
千九百四十万円の増額補正な
どです。

歳出の補正は、土地開発公
社保有地を買い取るために一
億四千五百万円を土地開発基
金へ、緑地買い取りのため千
六百三十四万四千円、財政調
整基金へ三億円等、総務費と
して四億七千九百二十万六千
円の増額。

衛生費として日本脳炎予防
接種の実施等で千二百二十九千
円の増額補正などです。

委員より「活力あふれる市
町村応援補助金」の詳細につ
いて、土地開発公社の保有地
買い上げ後の活用について、

浄化槽の設置補助の国・県の
割合について、日本脳炎の予
防接種について質疑がありま
した。

◎平成二十二年度斑鳩町国民 健康保険事業特別会計補正予 算(第二号)について

平成二十二年度の前期高齢
者交付金の確定と、それに伴
う国・県支出金の補正、レセ
プト審査支払いシステム等の
国民健康保険システム変更業
務委託にかかる補正等で、既
定の予算額から二千二百八万
二千円を減額し、総額三十四
億五百一十八千円とするもの
です。

委員より、前期高齢者交付
金の計算方法について、二十
年度、二十一年度の特定健診
の受診状況についての質疑が
ありました。

◎平成二十二年度斑鳩町公共 下水道事業特別会計補正予算 (第一号)について

平成二十二年度から国土交
通省所管の地方公共団体向け
個別補助金が原則廃止とな
り、社会資本整備総合交付金
に一括されました。

その結果、事業の運営に必要
な人件費、需用費等の事務費
が交付金の対象外になったこ
とから、これらを地方債に変
更されます。このため、国庫
支出金で一千万円の減額、地
方債で一千万円の増額補正と
なります。

また、継続費について、平
成二十三年度予定の稲葉污水
幹線上流部部分の工法を、本
年度着手予定の稲葉污水幹線
の一部と同じ工法で進めるこ
とにしたため、工事期間を平
成二十二年度・二十三年度の
二カ年と設定されました。

◎平成二十二年度斑鳩町介護 保険事業特別会計補正予算 (第一号)について

歳入では繰入金、繰越金に
より、歳出では各基金への積



立て、被保険者保険料の払い
戻し、国庫支出金等過年度分
の返還により、それぞれ二千
九百八十九万三千円を増額
し、総額十六億四千四百九万
三千円に補正します。

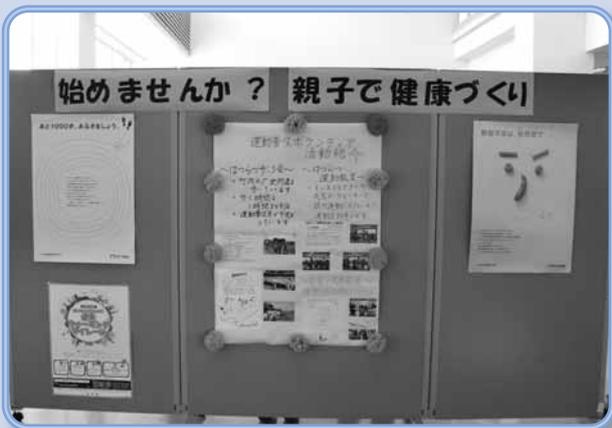
◎平成二十二年度斑鳩町後期 高齢者医療特別会計補正予算 (第一号)について

平成二十一年度会計におけ
る繰越金の確定と、この繰越
金を財源とした後期高齢者医
療保険料等負担金及び被保険
者保険料の払い戻しによる補
正であり、歳入歳出それぞれ
八十七万三千円を追加し、総
額三億八百八十七万三千円と
するものです。

(結果)

これらの五議案は、すべて
満場一致で可決すべきものと
決しました。

(嶋田委員長記)



始めませんか？親子で健康づくり

～生き生きプラザ斑鳩～



斑鳩町では、県のモデル事業として、町医師会、学校PTA、栄養士会等の協力を得て、次世代を担う子どもの健やかな成長のために、「子どもの健康づくり」に取り組んでいます。

9月18日には、保護者に対して、中学生の食生活についての講義と調理実習がありました。また、健康体操や骨密度測定など、親子で健康づくりについて考えていただきました。

編集後記

今年の夏は、極暑として記録と記憶に残る夏でした。体調を崩された方も多かったこととお見舞い申し上げます。

九月議会閉会后、計六回の編集会議を経て、十一月一日に「議会だより第六十六号」を皆様のお手元にお届けすることになりました。

今号の重点は「平成二十一年度決算審査」です。皆様からお預かりした大切な税金がどのように使われたのか、監査や委員会付託により慎重審査され、議会の最終日に本会議において認定となりました。

住民の方から、前号（六十号）二ページの「繰越明許費繰越計算書」とは何のことか。わかりやすい広報というのなら、住民が誰でも分かるように注釈をつけるべき、というもつともなご意見をいただきました。住民目線と行政目線を一致させるようにとおっしゃられたものと理解いたしました。

議会の役目は住民の皆様に代わって行政をチェックすることであり、そのためには、議会が行政の追認機関となつてしまったのでは、その役目は果たせません。

議会と行政は車の両輪に例えられますが、この車のオーナーは当然のことながら住民の皆様です。皆様のご意見、ご要望をお寄せくださいますようお願いいたします。

秋から冬にかけては寒暖の差が激しいと予報されております。皆様のご自愛とご健勝をお祈り申し上げます。

(吉野委員長記)



広報発行常任委員会

- 委員長 吉野 俊明
- 副委員長 木澤 正男
- 委員 中川 靖広
- 委員 紀川 良治
- 委員 飯高 昭二